



Title	活動報告（2025年）
Author(s)	今岡, 良子; 内田, 敦之
Citation	モンゴル研究. 2025, 34, p. 62-64
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/103480
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

《活動報告》

活動報告 (2025年)

今岡 良子
内田 敦之

月例会について

月例会は院生の発表が中心となり、東京都や千葉県から発表する院生もいるため、リモートを使っての発表が続いた。文学部の曾芳子が、共通教育の今岡担当の授業で「四季 遊牧—ツェルゲルの人々」の映画を見て、今岡とともにツェルゲルを訪問した。9月の例会で報告したが、月例会で学生が報告するのは久しぶりである。

(敬称略)

3月例会	3月 1日 19:00~	Zoom Meetings	M. ムンフゾル	「外交関係樹立以前の日本とモンゴルの民間交流—1966年の墓参を手がかりとして」
	3月 29日 19:00~	Zoom Meetings	執筆者	『モンゴル研究』33号の合評会
7月例会	7月 5日 19:00~	Zoom Meetings	アリヨーナ・バトエワ	「境界を越えて——ハンダスレン女史の回想録に見るモンゴルの歴史と家族の記憶」
	7月 12日 19:00~	Zoom Meetings	サインホビト	「中国におけるモンゴルの拝火信仰の文献リスト」
8月例会	8月 1日 18:00~	Zoom Meetings	チャオバオ	「内モンゴルにおけるアグリツーリズムの可能性—オルドス市ウーシン旗無定河鎮を事例として」
	8月 8日 18:00~	zoom と 対面	賀 志超	「中国内モンゴル自治区テメゲジ自然保護区における鳥類多様性と文化多様性の共生について」
9月例会	9月 20日 19:00~	Zoom Meetings	曾 芳子 今岡良子	「2025年のツェルゲル、地域からの地域研究の胎動—設立100周年を迎えたバヤンホンゴル県ボグド郡を2度訪問して—」
11月例会	11月 9日 19:00~	Zoom Meetings	サインホビト	「拝火祭祀書の比較研究—エジナ書とその他のラクダの招福書」
	11月 28日 19:00~	Zoom Meetings	サラントヤー	「清末における内モンゴル女子学生の留日体験について」

2024年3月に「モンゴル現代女性解放史研究会」が発足し、リモートで、不定期に開催し、上野千鶴子の『家父長制と資本制—マルクス主義フェミニズムの地平—』や岡野八代の『ケアの倫理と平和の構想』を読んだ。マルクス主義フェミニズムの第一人者と言えるアレキサン德拉・コロンタイは、人類史上初の女性の大臣であり、彼女の母性と子を保護する政策は、モンゴル人民共和国ではもちろん導入され、日本でも下敷きとして利用してきた。にもかかわらず、ほとんどのモンゴル人は知らず(知らされず)にいたことが、非常に興味深い。マルクス主義フェミニズムの視点からモンゴルの女性解放政策を問い合わせことで、歴史のフレームを一つ壊し、一つ加え、新しい窓が増える予感ががあるので、続けていきたい。

2024年、2025年は、モンゴル国で何10周年記念、100周年記念の行事が盛んに祝われ、学術会

議が開かれたり、さまざまな本が出版され、**номын баяр**（出版記念会）で紹介されたりした。

モンゴルの写真家協会設立90周年記念の行事の中で、10月8日に「モンゴルの写真撮影の始まり、その発展の90年の歴史」というテーマの国際学術学会が開催され、今岡良子が1990年代のゴビプロジェクトの写真資料と遊牧民からの聞き取り内容を紹介し

‘МОНГОЛЫН ХӨДӨӨ - 1990-ээд ОН: “Говь төсөл”-ийн судалгаанаас харахад’

「1990年代のモンゴルの地方—ゴビプロジェクトの調査資料より」という報告を行った。90年代は、モンゴルの人々にとっても、懐かしい過去になっている。



モンゴル国立大学のモンゴル語、言語学研究専攻が設立されて、80年となり、11月29日に開かれる「モンゴル語学研究-2025」国際学術会議に荒井幸康が「カルムイク語の第2音節以降の母音はなぜ書かれないのか」というテーマで発表した。



新しい動きとしては、荒井幸康が、10月から大阪大学人文学研究科に着任し、専任教員として外国語学部モンゴル語専攻の学生の教育を担うことになった。これからは言語学の研究会も盛んになっていきそうである。

(今岡良子)

水曜例会「モンゴル秘史を読む」について

(敬称略)

日 時	形 態	企 画	内 容(担当者)
1月 8日 19:00~	Zoom Meetings	内田	§ 129~130(内田)
2月 12日 19:00~	Zoom Meetings	内田	§ 131~132(賀 志超)
3月 12日 20:00~	Zoom Meetings	内田	§ 133~134(サインホビト)
4月 16日 19:00~	Zoom Meetings	内田	§ 135~136(サインホビト)
5月 14日 20:00~	Zoom Meetings	内田	§ 137~138(内田)
6月 11日 20:00~	Zoom Meetings	内田	§ 139~140(サインホビト)
7月 9日 20:00~	Zoom Meetings	内田	§ 141~142(サインホビト)
8月 13日 20:00~	Zoom Meetings	内田	§ 143~144(内田)
9月 10日 20:00~	Zoom Meetings	内田	§ 145(サインホビト)
10月 8日 20:00~	Zoom Meetings	内田	§ 146(チョモルリグ)
11月 12日 20:00~	Zoom Meetings	内田	§ 147(サインホビト)
12月 10日 20:00~	Zoom Meetings	内田	§ 148~149(サインホビト)

2020年10月に始まったこの例会も今年で丸5年が過ぎた。昨夏より月1回、第二水曜日の19時から開催してきたが、今年2月以降は内田の仕事の都合で20時始まりとした。今年は巻四129節から読み始めて巻四を読み終え、巻五149節まで進んだ。この5年余りで全体の三分の一ほどを読み進めたことになる。

今年度は、松田孝一先生、荒井幸康先生、サインホビトさんには積極的にご参加いただいた。最近の参加者は、上記3人に内田を加えた4人で固定化しつつある。少人数にはなっているが、今年度は一回も休会することなく継続できた。

松田先生からは歴史学からのコメント、関係論文・資料の惜しみない紹介・ご提供をいただき、荒井先生からは言語学、また、ブリヤート方言・オイラート方言との比較からコメントをいただいている。秘史の難解な古語や古い表現、歴史的背景などを理解するのに大変貴重な助言である。また、サインホビトさんにはレジュメ担当を数多く引き受けいただいた。ここで改めて皆さんに感謝したい。

課題としては、各会で共有された貴重な意見や議論の要点を内田が整理していた「読む会ノート」が今年度は一度も出せなかった。来年度は可能な限り整理して、共有できるよう精進したい。

また、秘史研究の膨大な成果の一部をこの間収集してきた。貴重な資料を参加者と共有できるようにしていきたい。

(内田敦之)